

## かしはら未来会議

日時 10月5日(日) 10:00～13:00

会場 かしはら万葉ホール 1階ロマントピアホール

## 橿原市の未来を担う中高生が提案！ 「日本国はじまりの地からはじめる Well being なまちづくり」

参加校：橿原高等学校 橿原学院高等学校 聖心学園中等教育学校  
光陽中学校 八木中学校 畝傍中学校

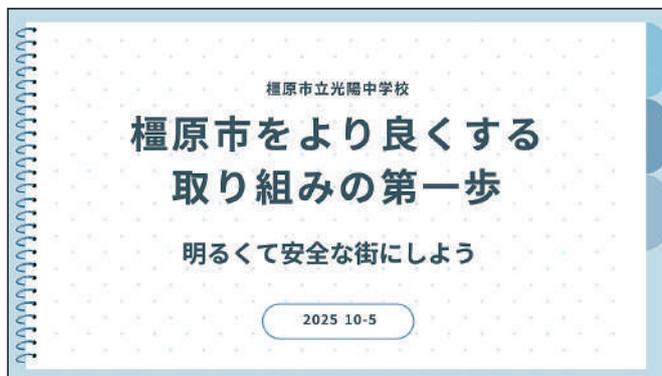
司会： ヒラコ

審査員：<sup>たつみ み な こ</sup> 巽 美奈子 (有限会社 巽繊維工業所 代表取締役)  
<sup>まつい まさひろ</sup> 松井 昌宏 (橿原市観光協会 事務局長)  
<sup>みやじ</sup> 宮地 なおみ (株式会社 ppp plus Company)  
<sup>わかもり あつし</sup> 若森 睦司 (橿原市役所 企画戦略部 部長)  
<sup>おくむら まさや</sup> 奥村 政哉 (株式会社 NaraDeWa 代表取締役)



## 第1部 参加校からの発表

### 1. 光陽中学校



**テーマ：**榎原市をより良くする取り組みの第一歩 明るくて安全な街にしよう

**発表の概要：**カーブミラー、街灯を増やすことで、安全で明るい街をつくることができます。

#### 【現状の課題分析】

**通学路の危険性：**発表者は実際に、通学路にカーブミラーが少なく、見通しの悪い場所で事故に遭いかけたことがあります。特に小さい子どもの安全確保の観点から、カーブミラーの増設は喫緊の課題と言えます。

**夜道の不安：**塾帰りなどで街灯が少なく暗い道が多く、夜道を安心して歩けないという不安を持つ方は多いです。人通りのある場所でも大きい道から外れると街灯が少なくなり、光が弱いため暗く感じる場合があります。

#### 【未来への提案】

##### 1. カーブミラーの増設に向けた地域連携の促進

- カーブミラーの設置には地元自治会関係者との意見調整が必要です。市や町の掲示板にポスターを貼り、住民へ積極的に呼びかけを行います。
- 自治会が主体となって近隣住民と話し合い、危険な場所を共有することで、地域住民とのつながりを深め、安全対策を地域活性化に結びつけるモデルを提唱します。

##### 2. 街灯の増設と明るい街づくり

- LED防犯灯設置補助金の情報を広げる：街灯設置のコスト負担を軽減し、自治会が積極的に防犯灯を増やせる環境を整え、夜道を明るくし安心・安全な街をめざします。
- シンボリックなイルミネーションの設置：榎原市内のイベント不足、特に学生が興味・関心を持つイベントの不足を補うため、イルミネーションをイベント化します。大和八木駅前で行っているイルミネーションのように、人通り増加と安全面向上の相乗効果を狙います。

#### 審査員からのフィードバック（異審査員）

車社会に生きる大人では気づきにくいカーブミラーや街灯の問題を、実体験に基づいた学生の視点から掘り下げた点が良かったです。街灯の数を実際に数えるなど、疑問を自ら行動して確認した調査姿勢、そして具体的な対策案として補助金情報を提示した点も大変素晴らしく、勉強になりました。

## 2. 八木中学校



テーマ：あそびがいっぱい！ぼくらのまち檜原 歴史もプールもぜんぶ冒険！

発表の概要：遊び場が少なく、また交通費が高つくという課題から、歴史と遊びを融合させた様々な遊びを作り、誰もが住みたくなる街づくりをめざします。

### 【現状の課題分析】

檜原市の気になる因子として、医療・福祉の不足、市民プール閉館をはじめとした市内遊び・娯楽の不足と、遊びに行くための交通費が高いこと、空き家などの都市景観問題、キャッシュレス・フリーWi-Fi不足によるデジタル社会への遅れ等があります。

逆に檜原市の魅力としては、歴史的建造物が豊富、大和八木駅を中心とする交通の便の良さ、商業・教育の充実や、自然災害が少なく暮らしやすいこと等があります。

### 【未来への提案】

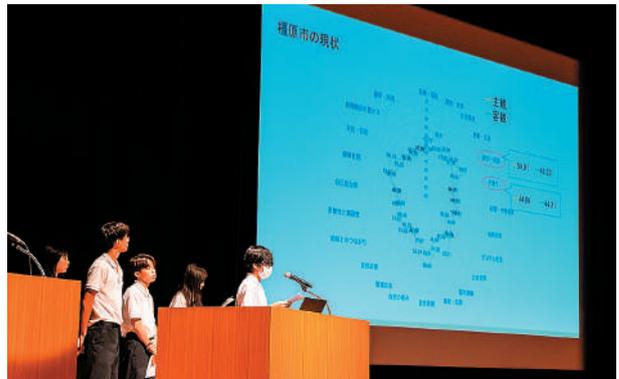
誰もが住みたくなる街の実現に向けた、歴史と遊びを融合させる4つのアイディア

1. 全天候型プール：ウォータースライダー、流れるプール、温水プールなどを備えた屋内プールを作り、遠出の交通費節約と、天候に左右されず年中いつでも遊べるレジャー施設で市民のQOLを高めます。
2. 空き家を「子どもクラブハウス」へ：空き家をリノベーションし、ゲーム、読書、勉強、カフェなどが一体となった学生の居場所を創出します。地域交流のコミュニティスペースとしての役割や観光客が泊まる宿泊施設としても活用。
3. 歴史アスレチックパーク：古墳や城をイメージした大型遊具（古墳スライダー、勾玉シーソーなど）を設置し、遊びながら歴史を学べる公園を作ります。夜間はライトアップで幻想的な空間を提供し、新たな観光資源としての活用も見込んでいます。
4. 子ども向け公共交通機関の利便性向上：子どもバス無料デー（月1回）の導入や、プール・アスレチックパークへの「遊び場直通シャトル」を運行します。子どもだけでもっと自由に出かけられる環境を整備します。

### 審査員からのフィードバック（松井審査員）

非常に身近に分かりやすくまとめられた提案です。聞き手がその場所にいるかのように想像しやすい内容でした。全天候型プールの提案は、単なる建設だけでなく、「そうするとどういう効果が生まれるか」まで考え抜かれている点が素晴らしいです。また空き家を活用した「子どもクラブハウス」の発想も非常に面白かったです。歴史アスレチックパークは歴史学習の一つの入り口として優れており、実現に向けて市も検討したいと思います。

### 3. 畝傍中学校



テーマ：人が集まりつながる楽しい街へ

発表の概要：人口減少を食い止めるため、未来の理想の榎原市として、誰もが暮らしやすい「人が集まりつながる楽しい街」を作っていきます。

#### 【現状の課題分析】

地域幸福度指標のグラフから、榎原市は遊び・娯楽の客観指数に対し主観指数が上回っている、つまり娯楽施設が多なくても市民は一定の満足感を持っていることが読み取れます。その一方で子育て関連の指数は50を下回っており、子どもの数の減少が全体人口の減少財政のひっ迫につながっているといえます。更なる人口減少を防ぐため、保育園の待機児童を減らす、放課後児童クラブの整備等、子育て支援の充実が大切です。

#### 【未来への提案】

人と人が温かくつながるため、「図書館」と「こども食堂」に注目しました。

##### 1. 図書館の活用と「学生の居場所」創出

○既存の図書館や自習スペースは静かで勉強がしやすいですが、友達と気軽に話しながら勉強できたり、グループワークに使えるような家、学校、塾以外の「学生の居場所」となる施設となれば良いと考えます。

##### 2. こども食堂のさらなる充実と地域交流の促進：

○こども食堂は、貧困に苦しむ子どもたちへの食事、団らんの提供を目的としていますが、子どもから高齢者まで学校で出会えない人たちと定期的に交流できる「地域の居場所」としての役割もあります。顔も知らない人たちから支えられている事実と、自分が地域の一員であることを実感できる大切な場所です。

○具体的な活性化策：市のイベント収入を財源とし、こども食堂への助成金を充実させること、SNSでの情報発信強化や、家とこども食堂をつなぐ送迎バスの運行で、より子どもたちが利用しやすい環境を作ります。

#### 審査員からのフィードバック（宮地審査員）

問題点の調査と解決への意欲 現状の問題点をしっかりと調べた上で、「そこで終わらない」、つまり解決に向けてどう動くかという点にワクワクさせられました。

こども食堂の利用促進策の具体性、大人が「場」を作ることはできても、その場が「どうやって利用されるか」という点まで掘り下げたことも評価できます。総じて非常にきれいにまとまっており、「こども食堂」というテーマが会場の参加者全員の頭に残る、インパクトのある発表でした。

#### 4. 聖心学園中等教育学校

### 超・高齢化社会に挑む！ 檜原モデルの医療改革 ～財政との両立に向けて～

聖心学園中等教育学校  
3年 榎本天音 木地うた 中島菜智 古田遥菜



テーマ：超・高齢化社会に挑む！檜原モデルの医療改革～財政との両立に向けて～

発表の概要：檜原市の魅力にあわせた高齢化社会への対応として独自の医療モデル「檜原モデル」を提案します。

#### 【現状の課題分析】

檜原市は県内で人口1万人あたりの医師数が最も多く、医療資源は充実しています。その一方で全国平均よりも高齢化が進んでおり、それに比例して病気や介護のニーズと、医療・福祉の負担が増大しています。特に、医師・看護師の大病院への集中と、高齢患者による大病院での高度医療受診が医療費の増大につながっています。また、特定健診実施率が低いことも含め、高齢化と医師の偏在によって地域医療が十分に機能していないことが課題です。

#### 【未来への提案】

めざす未来の姿は「檜原市の魅力とあわせ高齢化社会に対応する街」であり、次の2つの柱で構成される「檜原モデル」を提案します。

##### 1. 暮らしと自然にやさしい医療環境

- 在宅診療・オンライン診療の体制整備：通院が難しい高齢者も自宅やオンラインで安心して診療を受けられる体制を整えます。
- 自然の恵みを生かした森林療法の導入：檜原市オリジナルプランとして、檜原神宮でのセラピーウォークや自然茶ブレイク等を通して、誰もが気軽に健康作りに参加できます。

##### 2. “いい医療”を長く使えるしくみ

- かかりつけ医への誘導：「大病院で診てもらいたい」という思いから、高齢患者が初めから大病院を受診してしまう現状に対し、まずは地域のかかりつけ医へという意識を広めます。SNSでの情報発信やポスター作成のほか、どこの病院に行けばいいかわからないという悩みを解消する「かかりつけ医候補チラシ」を配布します。
- 「かかりつけ診察券」地域共通ポイントカードの導入：健康相談や通院でポイントが貯まり、地元のお店で使えるようにすることで、定期的な健康診断を促し、病気の重症化を防ぐ仕組みを構築します。

#### 審査員からのフィードバック（奥村審査員）

医療領域という難しいテーマに対し、具体的な数値や分析に基づいて多角的な手法（森林療法、かかりつけ医の活用など）を提案した点は非常に高く評価できます。一方で、市民が「しっかりしたところを見てほしい」という心理で大病院に行くという課題解決については、アイディアに掘り下げの余地があると感じました。全体としては市として取り組むべき素晴らしい提案だと思います。

## 5. 檀原高等学校



テーマ：檀原市の交通安全対策について

発表の概要：奈良県警察本部公表の「交通事故多発交差点ワースト10」に檀原市内の交差点が4か所も含まれています。事故のない安心安全な街をめざした交通安全対策を考えました。

### 【現状の課題分析】

日本損害保険協会の資料分析、檀原署交通課長への聞き取りや、事故多発交差点の現場観察を行った結果、事故の共通原因として大きな交差点で交通量が非常に多く、スピードが出やすいため、減速や停止時の速度変化が激しいことがわかりました。また個別の原因として変則四叉路、六叉路、八叉路による渋滞、停止線が手前にある、店舗が多く出入りが頻繁など、各交差点とその周辺環境による構造的な問題を発見しました。

### 【未来への提案】

檀原署交通課長の「取り締まりや交通規制は対症療法でしかなく、道路構造・環境の改善による根治治療が理想。ドライバー自身が交通事故を自分事として感じられる取り組みが必要」という言葉に着目し、何よりも大切なのは、ドライバー一人ひとりが安全を最優先する意識を持つことであるという結論を出しました。そこでドライバーの意識改革を促すため、「北風と太陽」のような2側面からの対策を考えました。

1. 北風（厳しさ）：事故の悲惨さを伝える活動や、違反者への厳罰化。
2. 太陽（楽しさ・報酬）：
  - 太陽案1（愛着）：各幹線道路に「藤原宮跡コスモスロード」のような愛着のある名称を付け、ガードレールや標識などに装飾を施し、きれいで目立つ道路にします。
  - 太陽案2（成果報酬）：成果報酬型アプリを開発し、各道路の無事故無違反状態の継続、または個々のドライバーの無事故無違反状態の維持に対しポイントを付与。周辺施設で利用できるようにすることで、交通安全と街の活性化を両立させます。

### 審査員からのフィードバック（若森審査員）

警察への聞き取りや現場調査、写真撮影など、肌で感じた調査に基づくプレゼン資料は非常に優れていました。スイスの「ビジョン・ゼロ」など具体的な海外事例を紹介した点も評価できます。提案は、多大な費用と時間がかかる道路構造の根本的な変更ではなく、比較的ソフトな対策に焦点を当てていました。「北風と太陽」（飴と鞭）を用いて人の心理を活用し、道路自体に愛着を持たせるという着眼点が斬新です。行政としても、この提案をきっかけに交通事故のない楽しい檀原市をめざすべきと考えます。

## 6. 橿原学院高等学校



テーマ：高校生の通学路からつなぐ“はじまりのまち”構想～飛鳥・藤原の歴史を日常に取り込み、橿原市の主要駅と高校をバスでつなぐ～

発表の概要：橿原市の歴史を学ぶ時間を高校生の通学時間に取り込むことで、「移動」から「学び」への転換を図ります。

### 【現状の課題分析】

橿原市の「Well-being 指標」において、移動・交通、教育機会の豊かさの面が主観・客観ともに低いことがわかりました。学内で行ったアンケートでも約半数が交通に課題を感じており、特に「橿原神宮前駅と橿原学院を結ぶバスがあればいいのに」という声が多くありました。また、橿原市は「日本国はじまりの地」として歴史的価値が高いにもかかわらず、高校生は通学路にある歴史資源に触れる機会がなく、素通りしてしまう現状があります。

### 【未来への提案】

高校生の通学を支援する新路線バス「飛鳥まなび号」を導入します。

- 既存の路線や停留所を活用することで運用コストを抑えつつ、停留所を歴史資源に沿って配置します。
- バス車内に「まなびパネル」を設置し、飛鳥の歴史などについて学べるようにする。通学時間という「移動」を「学び」の時間に変え、高校生が歴史に触れ、街を知り、未来を考えるきっかけとなる「走る教室」をめざします。
- 期待効果：通学環境の改善だけでなく、通学中の歴史接触による郷土愛と学びの育成、地域資源の再発見による観光・教育の両面での活性化、若者の参画意識向上といった多岐にわたる効果が期待できます。

### 審査員からのフィードバック（宮地審査員）

1つのテーマを深く調べ、この会議という場をふんだんに利用した素晴らしい提案です。通学時間が交通手段としてだけでなく、「地域の愛情」「仲間との思い出作り」など、様々なきっかけになるという点が良かったです。また、発表資料についても、内容と言葉とイラストがすごく分かりやすくまとめられていました。特にバスやまなびパネルのイラストを自身で作成したことや、「飛鳥まなび号」のロゴマークが素晴らしかったです。

## 第2部 檀原市長とのパネルディスカッション

各校の代表者6名が檀原市長に対し、直接聞いてみたい質問や要望を問いかけました。



### ★光陽中学校

市長が中学生に「これだけは知ってほしい」と思う檀原市の魅力は何でしょうか。

市長 日本国はじまりの地であり、歴史が深いこと（飛鳥・藤原の宮都の世界遺産登録をめざす活動、藤原京、大宝律令など）だと思えます。今井町や益田岩船など、歴史の宝庫であることに誇りを持ってほしいです。

檀原市に住み続けたい人が少ない現状に対し、どのような取り組みを行っていますか。

市長 現市民向けには、子育てと教育に注力（18歳までの医療費無料、第2子以降の保育料無償化など）し、子育てしやすい環境作り等を進めています。高齢者の移動手段確保による住みやすいまちづくりや、また市外からの移住促進として、移住者への金銭的支援や生活支援、PR活動を実施しています。

### ★八木中学校

学校の体育館にクーラーを設置してほしいです。

市長 暑い夏が続いており、整備が遅れているのは申し訳ないです。令和6年度から市内の小中学校の体育館への空調設置工事を始めており、八木中学校も今年・来年あたりから始まる大規模リフォームの一環として設置予定です。

檀原市にリニアモーターカーを造る話はどうなりましたか。

市長 物理的に直線で走るリニアのルートが檀原市を通ることが難しくなったため、誘致は断念しました。現在は、檀原市に最も近い大和郡山駅にできることをめざし、誘致活動を行っています（東京・大阪間は2037年開通予定）。

地震などの災害に備え、何日分の生活支援物資があるか、何人分の避難を想定しているか知りたいです。

市長 南海トラフ巨大地震や奈良盆地東縁断層帯による揺れを想定しています。避難者は最大2万6,000人ほどと想定されるが、現在の避難所の収容人数は1万7,000人となっており、

食料・飲料は3日間分を用意しています。4日目以降は国などからの支援が届く想定。個人での防災準備も呼びかけていきます。

### ★畝傍中学校

市長が子どもの頃、檜原市に「こんな施設があつたらいい」「こんな街になってほしい」と思っていたことはありますか。

市長 スポーツが好きだったので、プロスポーツが見られるようなスポーツ施設（ドームや球場など）が近くにあるといいと思っていました。

現在の檜原市で便利に感じるどころ、逆に不便に感じるどころはありますか。

市長 便利に感じるのは、交通の便が良いことです（近鉄10、JR3の計13駅があり、平坦な市であるため）。そして不便に感じるのは、大型ショッピング施設周辺の週末や連休の大渋滞等です。

### ★聖心学園中等教育学校

高齢者の方々が、支えられるだけでなく、地域を支える存在として活躍するにはどんな仕組みが必要だと思いますか。

市長 「人生100年時代」において、現在の65歳以上は昔に比べ非常に元気であるという視点の変化が重要です。高齢者の経験を活かせるよう、地域活動への参加促進や、子どもたちへの歴史の伝授などを通じた異世代間連携の深化が大切です。退職した教員が無料で学習指導をする場も人気で、高齢者が支える側に回っている良い例です。

### ★檜原高校

檜原市は交通事故が多いと言われているが、交通安全対策の考えはありますか。

市長 啓発活動や交通安全教室を通じて、市民が交通事故を「自分事」として捉える意識改革が必要です。また、交差点の改良や見通しの悪い場所の解消といった物理的な対策も当然進めていきます。不幸な事故を防ぐため、啓発活動を積極的に行うべきと考えています。

### ★檜原学院高等学校

今回提案した構想（バスの移動時間活用など）を実現に近づけるために、私たちが身近にできることはありますか。

市長 提案は時間を有効に使うために有益です。移動を移動として捉えるのではなく、自分事に繋げる意識が重要だと思います。バス乗車と歴史学習を紐付けるなど、好循環が生まれる仕組みづくりを進めたいと考えています。学生の皆さんには、今回のように地域の課題に注目し、解決策の提案といった形で引き続き発想と知恵を貸してほしいと思います。

## 表彰

提案の独創性、実現可能性、そして橿原市の未来への貢献度の3つの視点から厳正に行い、審査員による「最優秀賞」、「審査員特別賞」を決定しました。また会場内の観客にスマートフォンから投票していただき、「会場特別賞」を決定し、合計3校を表彰しました。

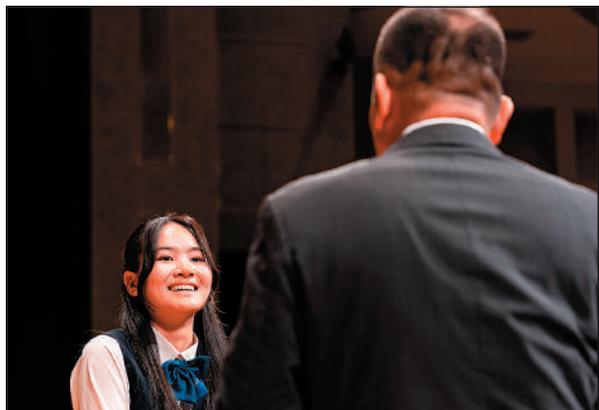
### 最優秀賞 八木中学校



### 会場特別賞 畝傍中学校



### 審査員特別賞 橿原高校



## 総括

## 奥村審査員

全体として、発表の質と完成度の高さは驚くべきものでした。単なる思いつきではない、徹底した分析に基づく真摯な提案であったと感じました。どの提案も檜原市や地域にとって非常に有益であり、地域で実現に向けて検討していくべき貴重な提言です。参加者には、今回の未来会議を機に、今後も引き続き、提言いただいた内容の実現に向けて力を貸してほしいと思います。

